

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年3月25日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900542		
法人名	医療法人 正信会		
事業所名	グループホーム さくら	ユニット名	西棟
所在地	〒315-0122 茨城県石岡市東成井2219-8		
自己評価作成日	平成24年9月15日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873900542-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873900542-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年11月22日	評価確定日	平成25年3月7日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>四季折々の花や樹木に囲まれた静かな環境の中で安心して過ごして頂いている。 一人ひとりに合った形状で（普通食、荒刻み食、刻み食、常食、お粥など）食事を考え召し上がっていただき楽しい食生活を送って頂いている。 リハビリの為の歩行訓練など、毎日出来る環境が整っている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は周囲を栗林や畑に囲まれた静かな環境に立地し、広い敷地の一角にある畑で野菜の栽培が得意な利用者が季節の野菜をつくり、新鮮な野菜が毎日の食材となって食卓に上り利用者を喜ばせている。 職員は明るい笑顔で穏やかに利用者に接しており、利用者は安心して生活している。 管理者を中心に職員の連携で各ユニットの情報を共有するとともに、利用者が安心して過ごせるよう協力体制を築いている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「さくらの理念3ヶ条」は、各棟見える所に掲示し常に心掛けるように努めている。	運営母体の理念と全職員で作成した地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を玄関や各ユニットの洗面台の上に掲示している。 職員は法人理念及び事業所の理念を暗記しているが、理念を実践するまでには至っていない。	理念をミーティングなどの機会に全職員で唱和するなど共有するとともに、実践に取り組むことを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として行事ごとに地域の方に参加の呼びかけをしたり、また地域の中学生の職場体験の受け入れをし、利用者と共に過ごせる時間を設けたりしている。また敬老会に少人数ではあるが参加をしている。	地域のボランティアによるカラオケを受け入れているほか、地域の人々から野菜のお裾分けがあったり、事業所主催のクリスマス会や納涼祭に近隣の人々を招待するなど地域と交流をしている。 近くの保育園児が立ち寄ったり、中学生が職場体験学習で訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議などを利用して地域代表の方々に認知症の人の理解や支援をして頂ける様に活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回を計画、実施しているその都度事業所報告、意見交換をしてさくらの現状を理解して頂いている。また民生委員の方からの報告で地域の独居老人の方など把握し、何かあった時には受け入れ、協力できるように心掛けている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域住民の代表、在宅介護支援センター職員、民生委員、他法人の介護老人保健施設職員、事業所の本部統括、事業所職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では運営状況や空き情報報告、利用者の状況報告を行い、委員から出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者（介護保険課、高齢福祉課、包括支援センターなど）の方とは来訪、電話などで協力関係を築いている。	市担当者から生活保護を受給している新規利用者の情報を得たり、市担当者へ利用者の生活状況を報告するなど連携を図り、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケア、身体拘束がもたらす弊害、「緊急やむを得ない」場合に行う身体拘束については研修し厳密に検討している。それでも「緊急やむを得ない」身体拘束を行う時は家族との話し合いを設け同意書を頂くようにしている。現時点では身体拘束をしている利用者はいない。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成している。 日中は玄関を施錠せず利用者の自由な行動を見守るとともに、全職員で玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、身体拘束をしないケアについての研修を実施するまでには至っていない。	何気なく行っている支援が身体拘束に当たらないかどうかを確認する意味からも、マニュアルにそって身体拘束排除に向けた研修を実施することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関してはすべてのスタッフが研修を受けている。また虐待防止マニュアルに基づき常に心に刻みながら利用者の人権および尊厳を守る為に介護に力を入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については研修は行っている。家族には入所時に契約書を説明する際（契約書第11条、第12条）と一緒に説明させて頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が家族に契約書を十分に説明し、家族からの希望、意見または質問等を良く聞いた上で、契約を交わすように心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には現在の利用者の状態を説明し、また家族の要望を聞くようにしている。玄関前にはアンケート用紙も用意し無記名で投書できるようにしている。それを運営推進会議やミーティングに話し合うようにしている。	管理者や職員は利用者の居室で利用者及びその家族等と直接話をして意見や要望を聴いているほか、必要に応じて家族等と面談し、意見や要望を聴いている。 出た意見等は職員会議で議題として話し合い、運営に反映させている。	次のステップに向け、利用者の意見を聴く機会として介護相談員の活用を期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時にスタッフ間で意見や提案を聞く機会を設け、積極的に意見交換している。また管理者は個人的にスタッフと個別面接を行い意見や相談を聞くようにしている。	管理者は月1回のミーティング時に職員から意見や提案を聴く機会を設けているほか、話し易い雰囲気づくりに努め、日常的にも職員から直接意見等を聴いている。 管理者は職員との個別面談を年2回実施し、出た意見や提案を職員会議の議題に取り上げ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件など職員個々の意見が反映されており、やりがいがある環境を与えている事でスタッフが向上心を持って努められていると思われる。それが今のスタッフの勤務継続に繋がっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は参加可能な限りはスタッフに参加出来るように配慮している。ホーム内ではマニュアルを基に研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	23年度より石岡市地域密着型介護サービス事業所協議会が設立され、年4回の会議に参加し交流を行っている。4回の会議の中には、講習、スタッフ育成研修、実体験談などがあり参加する事でサービスの質の向上をさせていく向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との傾聴を密にして、何を考え要望しているかなど信頼関係を築き安心できるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや困ったこと、不安なこと、要望などに耳を傾け、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が一番必要としている支援を初期の話し合いの中で見極め対応している。現在は他のサービスを利用している方はいないが本人や家族が他のサービスを希望した場合は支援出来る対応を心掛けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事時間、入浴中、レクリエーションなど一日の半分を一緒に過ごす事で、お互いの気持ちも理解でき喜んだり悲しんだりできる関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いなど家族に伝えるなど双方の間に立ち、本人と家族の絆が円滑に運び家族と共に本人を支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所への行き来は自由である。昔の友人などが来訪した際は飲み物を提供し居室でゆっくりと団欒して頂いている。	職員は利用者一人ひとりの馴染みの人との関係を把握しており、利用者の友人が訪ねてきた時には居室で話ができるよう、お茶を出すなどで接待をしている。 利用者が家族等と一緒に墓参りなど馴染みの場所へ出かける時には、着替えや整容、持ち物などの外出準備を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士、趣味が合う方同士を考え、ソファやテーブルの席を配慮している。一人の方が孤立しないように常にスタッフが間に入りより良い関係が気づける様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族の方から電話や手紙を頂き、家族の思いやその後の経過などを話すなど信頼関係は継続している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や思いを把握し出来る限り意向に添える様に努めている。意向困難な方の場合でもその方の思いを見極め添えるように努めている	職員は利用者との普段のさりげない会話や月1回開催するカラオケの後に交わす会話の中から意向の把握に努めている。 思いの把握が困難な利用者の場合は家族等に話を聴いたり、表情やしぐさなどから判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活環境、生活歴や暮らし方など家族からの傾聴や介護サマリーを参考に把握している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の行動や心身の状態を記録に記す事で現在の状況を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づいた事をスタッフ間で話し合い意見交換をした上で、本人、家族、ケアマネージャー管理者を含め話し合いを行い意見、希望など本人がより良く暮らせるように介護計画を作成している。	管理者は利用者や家族等、職員の話聞いて利用者の課題やニーズを把握するとともに、職員と話し合っ現状に即した介護計画を作成している。 長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月と設定しているが、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直している。 モニタリングを3ヶ月毎に実施している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日全体の介護日誌や個別のケース記録を基に職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所で許される範囲の柔軟な支援やサービスは積極的に取り組んでおり、本人や家族の状況の変化やニーズ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事のボランティアの方の来訪、年2回の消防訓練時の消防署職員に来訪して頂き安全指導をして頂いている。また2ヶ月に1回の地域の理容室の方の散髪など暮らしを楽しむ事が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医院については、利用者家族と話し合いのもと決定している。ただしほとんどの利用者の方が母体である病院を希望され24時間体制で適切な医療を受けている他病院での受診を希望される場合は、家族の協力をお願いしている。どうしても家族が対応できない場合はスタッフが対応する事もある	全ての利用者が運営母体である医療機関の医師を主治医としており、運営母体の医療機関の送迎車を利用して受診している。 服薬を含めた受診結果は、家族等に電話で報告している。 眼科や耳鼻科等への通院は家族等が付き添っており、受診結果を家族等から聞いて個人記録簿に記録するとともに、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態や身体的変化、異常時は常に母体である病院の看護師より指示を仰げる体制は出来ている。また一週間に一度の訪問看護師の来訪時やケアマネージャーが看護師の為その際には利用者の状態を直ぐに報告出来る体制になっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院の管理者は常に病院との連携は図っているため、より良い関係作りは出来ている。その為入院中の利用者の状態も常に把握でき、早期に退院出来るように努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的に母体が病院ということもあり、看取りは行わない方針である。ただ家族からの要望で出来るだけさくらくらで過ごさせてほしいとの話があった場合は担当医と連携を図り出来るだけのケアを行うように支援している。その際は家族との話し合いのもと同意書にサインを頂いている。	事業所は今までに3名の看取りを実施しているが現在は行っておらず、最終的には運営母体の医療機関へ入院することとしている。事業所で介護ができるのは飲食が可能な場合までとし、慢性疾患と老化が進み、心身の状態が衰弱して改善の見込が著しく低い場合は担当医が入院の判断を行っている。「ターミナルケアに関する説明書及び同意書」に基づき、看取りはしない方針であることを家族等に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急、急変時対応マニュアルを参考にスタッフは常に対応できるように心掛けている。同業施設が行っている研修や講習の中に、消防署で行う普通救命講習があり、何人かのスタッフはその講習に参加させて頂き終了証を取得している。今年も参加を予定している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、その後反省会を含め次回の訓練に役立てる様に努めている。また昨年の震災時近隣の方の協力を頂き、今以上に信頼関係が築けるようになった。市役所からの依頼もあり備蓄リストを作り、災害対策に取り組んでいる。	避難訓練を年2回実施し、内1回は消防署立会いによる夜間想定避難訓練を行っているが、地域住民の参加を得るまでには至っていない。避難訓練の実施記録を作成するとともに、消防署からの指摘事項を参考に訓練で明らかになった課題を全職員で話し合っって次回の訓練につなげているが、災害対応マニュアルや役割分担表を作成するまでには至っていない。飲料水やお茶、米、うどん、カップ麺、缶詰、カイロ、軍手、ビニール手袋、ロウソク、ライター、アルミ箔、冷却ジェルシートなどを備蓄し、備蓄品一覧表を作成している。	災害対応マニュアルを作成するとともに避難時の役割分担表を作成し、役割に応じて避難訓練にあたることを期待する。避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう、運営推進会議などを活用して協力を呼びかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に名前は名字で呼んでいるが一人ひとりその方が入所前から呼ばれている呼び方で呼んだり、同じ名字の方は下の名前で呼んでいる。また誤った言動や行動があった場合は居室でお話しし対応している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重して穏やかな言葉かけや対応をしている。利用者がトイレへ立つ場合も周囲の人におからないようにさりげなく声をかけて誘導している。利用者の個人情報に関する書類は事務所のロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を訴えた時は傾聴し本人の思いに添える様に支援している。認知度の高い利用者の思いは毎日の言動でくみ取り安心して生活出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	庭の手入れや片付け、囲碁や将棋、テレビ観賞など一人ひとりの希望に添った過ごし方を出来る限り大切に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	縫い物のなど得意な利用者は自分で好みに縫い直し着用したり、季節感のある衣服を自分で選んで自由に着ている。またスタッフと一緒に選ぶこともある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの健康状態や好みに合わせ常食、お粥、刻み食などの対応で食べやすい形状で対応している。嫌いな食べ物に関しては代替して対応している。食後は後片付けやテーブル拭きなどお手伝いをして頂いている。	食事の際はテーブル毎に職員が座って利用者と楽しく食事をしており、利用者の食べこぼしや嚥下に注意をするとともに、食が進まない利用者には声をかけるなど、きめ細かい支援をしている。 利用者はできる範囲でテーブル拭きや下膳などの役割を担っている。 2ヶ月に1回程度利用者の希望にそってラーメンを食べに出かけるなど、外食を支援している。 自家菜園で収穫した野菜を食材に加え、利用者は収穫した野菜の話題で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分、食事摂取量をチェック表に記載し一人ひとりの健康管理に役立てている。また夜間水分摂取を希望の利用者には各自専用のペットボトルにお茶を入れてあげ水分補給をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアを行っている。夕食後は特に歯磨き後うがい薬を使用して風邪予防対策も行っている。入れ歯の方は夜間洗浄液に一晩保管し朝まで預かっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全員トイレでの排泄を基本としている。一人ひとりの排泄パターンを考え、失禁が減るような対応を心掛け、実践して効果を上げている。	職員は排泄チェック表を活用して時間を見計らって声をかけたり、車いすの利用者には早めにトイレへ誘導するなど、排泄の自立に向けた支援をしている。 紙パンツにパッドを当てるなど、おむつの使用を減らせるよう取り組むとともに、要介護度が高い利用者もトイレで排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便記録を記載している。それを参考に水分補給や散歩など声かけしたり、便秘薬の服用などで対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日を変えて各棟で入浴しているので、本人の希望があればいつでも入浴できるようになっている。入浴中はスタッフと歌を唄ったりとゆったりと入浴を楽しめる様に支援している。	週3回午前中の中の入浴を基本としているが、ユニット毎に入浴日を変えているため、利用者の都合で所属するユニットでの入浴のタイミングが合わない場合でも、違うユニットで入浴ができるよう支援している。 浴室に介護用の椅子と手すりを設置し、車いすの利用者も安全に入浴ができるよう支援している。 入浴を拒む利用者には時間をずらすなどの対応をしている。 季節に応じて菖蒲湯や柚子湯などで入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望を尊重して、日中でも休みたいと話された時は休んで頂いている。寝やすいように各自持参したマットレスを使用している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストがある為スタッフは薬の用途、用量は理解している。服薬はスタッフが直接口に入れ服用して頂いている。病状の変化や確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の手入れ、囲碁、将棋、裁縫など好みに合わせて好きな事を行う事によって喜びや気分転換を図れるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により外出に出かけたり、ボランティアの方の誘いで日本舞踊の発表会に参加したりまた大正琴の演奏会にも出かけるなど外出の支援を行っている。	本部の車を利用して苺狩りに出かけたり、小美玉市みの一れで開催する大正琴や日本舞踊の発表会に出かけられるよう支援している。 利用者は職員と事業所周辺を日光浴を兼ねて散歩をしている。 職員は家族等と協力しながら利用者が月に1回程度家族等と一緒に外出に出かけたり、自宅に帰れるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物を購入したい時はスタッフが希望を聞き本人に代わって買い揃えている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は希望があれば自由に取ったり、さくら内に公衆電話も設置されているので自由に掛ける環境を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行可能な方、車椅子、シルバーカーなどの使用の方の共同体で生活している為共同空間に混乱のないように配慮対応している。利用者から見える庭には季節の花を植えたりして季節感を取り入れている。	玄関や居間はクリスマスや正月、七夕など、季節に合わせた飾り付けをし、家庭的な雰囲気となっている。 居間の壁面や廊下に利用者の手作り作品や写真を掲示している。 廊下に手すりを設置し、利用者が安全に歩行ができるよう配慮している。 居間の窓からは多種類の木々や利用者が作る畑が眺められ、作物の成長を見て楽しむことができる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各棟に繋がる廊下には本棚があり自由に読書観賞できるようになっている。またソファが置いてあり涼んだり、日向ぼっこをしたり穏やかに過ごせる空間となっている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせるように自由に、使いなれた物や必要な仏壇なども本人の希望により置いたりして過ごされている。	居室は整理箆笥のほか洗面台やベッド、エアコン、カーテンが備え付けられている。利用者は自宅から仏壇や位牌、使い慣れた籐の椅子、家族の写真、利用者が作った折り紙の置物、花、ラジオ、ぬいぐるみなどを自由に持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には両端に手すりが設置されており、杖歩行の時に役立っている。建物内は安全で過ごしやすい環境を提供している。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目標達成計画

事業所名 グループホームさくら

作成日 平成25年 3月21日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防訓練は年2回行っているが、近隣の方の参加はなかなか難しい。	再度近隣の方々また消防団の方に手紙にて消防訓練の参加を呼びかける。	今回4月7日に消防訓練を行う予定。今までの平日から日曜日に変更し近隣の方に参加して頂くように手紙を配布したまた災害マニュアルと役割分担表の作成を行う。	次回の消防訓練まで。また近隣の方の参加に関しては毎回訓練時に声かけする
2	1	各棟の見える所に理念は掲示しているが、毎日の介護の仕事の中で理念を心に刻み行っているかと考えると忘れてしまうこともある。	職員は再度理念を理解し、常に心掛け実践できるようにする。	まずはミーティング時にもう一度理念について話し合う。そしてミーティングの時には必ず理念を忘れない為にも唱和する。	毎回のミーティング時
3	6	今は身体拘束をしている利用者はいない為研修を行っていない。	身体拘束を行わない介護を目指す為にも再度研修を実施する。	身体拘束排除に向けたマニュアルを基に全職員で研修するまた外部で研修があった場合は進んで参加する	ミーティングの時や外部で研修がある時
4	10	八郷町が石岡市と合併する前までは介護相談員の方が月1度来所してくれていたが、石岡市になってからはどちらにお願いしていいのかが分からなかった為来て頂けなくなってしまった。	介護相談員の受入	まずは行政に相談し介護相談員の受入について尋ねる。	3ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。